

6. 事業内容	マラウイでの特に大きな課題は、妊産婦死亡率、乳幼児死亡率が高いことである。なかでも、1,120/100,000¹ という妊産婦死亡率は、サハラ以南諸国平均の 640/100,000 と比較しても特に高く、世界の最下位クラスに位置している。妊産婦の死亡率が高いことは、乳幼児の死亡率をも高める一因となっていることから、保健分野において最も重要な課題のひとつである。そのため、妊産婦死亡率を 2015 年までに 155/100,000 まで減少させることが、国家目標²のひとつに設定されている。 また、保健人材の不足等、保健システムそのものも非常に脆弱であり、こうした保健課題に十分対応できていない。 以上の状況を踏まえて、本事業は、3 年間で母子保健に関連する医療インフラの拡充と改善を目指し、2 つの成果を達成することを目指している。 【成果 1】産科関連設備の充実・改善 県内の医療施設(県病院 1 カ所、ヘルスセンター11 カ所)に適切な産科ケアを実施する体制を整えるために、産科関連施設・設備の整備を以下の通り行う。 1-1 産科棟のない 3 つの地域で産科棟を建設する。 1-2 医療施設 6 カ所に安全なお産のための待機所を設置する 待機所の詳細設計書を作成し、建設をする。 1-3 医療施設に設備・器具を整備する 設備機器を調達し新設産科棟に設置する。また、既存の産科棟にも必要最低限の機材を整備する。 【成果 2】基礎的な医療関連施設の改善を通じた医療サービスの向上 県内の医療施設の基礎的な設備およびそれに付随する設備の改善を通じて、ンチシ県の全体的な医療サービスの向上に貢献する。 2-1 医療従事者宿舎 4 棟を建設する 新たに新設した産科棟で働く医療従事者を招聘できよう、医療従事者宿舎を建設する。 2-2 医療施設 5 カ所に水道設備を設置する 水道設備建設にかかる検査を実施し、水道設備を建設する。 2-3 医療施設 5 カ所に電気を整備する 医療施設にソーラー発電装置を設置する。 事業 1 年目は、産科関連設備の充実・改善の達成を目指し、産科棟のない 2 つのヘルスセンター(Mndinda, Khuwi)に産科棟を建設するとともに、そこで必要となる資機材の購入・設置を行っている(2014 年 1 月現在)。事業 2 年目では、1 年目の活動を踏まえて以下の活動を行う予定である。 <u>イ) 既存の医療施設に安全なお産のための待機所を設置する。【成果 1】</u> ンチシ県は、地形が険しく公共交通手段もないために、医療施設へのアクセスがきわめて悪い。そのため、妊産婦は、陣痛が始まる前に医療施設に移動し、待機することが望ましい。しかし、県内 12 の医療施設には、妊産婦および付添者が待機できる設
---------	--

¹ Government of Malawi Reproductive Health Unit 2009 Annual Report

² Malawi Growth and Development Strategy (MGDS II), 2011

	備がない施設も多く、また施設があっても質、広さともに十分ではなく、出産のための付き添いが同行できない、妊産婦が施設外で睡眠をとる必要があるなどの結果として、自宅での待機や自宅出産を選ぶ妊産婦が多い。この問題を解決し、安全な場所での出産をするため、医療施設に待機所を建設、整備することが急務であることから、事業 2 年目は Mndinda, Khuwi, Mzandu の各地域にて待機所 3 棟の建設を行う。これら施設の整備後はンチシ県が自主的に施設の維持・管理を行うことを含めた覚書を県知事と結ぶ。またンチシ県が医療施設に対し、当事業により整備した保健施設の維持管理が適切に行われるように指導できるよう、事業期間中に働きかけていく。 ロ) <u>既存の医療施設に水道設備を設置する。【成果 2】</u> 県保健局とワールド・ビジョンが共同で行った調査の結果、県内の医療施設の 8 割が水道設備を備えているものの、機能していないことが明らかになった。そこで、事業 2 年では、1 年目に建設した産科棟(Mndinda, Khuwi)付近のコミュニティにて深井戸を掘り、ポンプを設置し地下水の揚水をソーラーパネルにて行い、パイプラインにより医療施設に供給するシステムの構築を行う。建設中には定期的にカウンターパートとミーティングを行い、進捗管理を行う計画である。
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	<u>①これまでの事業における成果(実施した事業内容とその具体的成果)</u> (2014 年 1 月末日現在) 【成果 1】産科関連設備の充実・改善 県内の医療施設(県病院 1 カ所、ヘルスセンター11 カ所)に適切な産科ケアを実施する体制を整えるために、産科関連施設・設備の整備を行う。(3 年間の目標) 1-1 2 カ所に産科棟を建設する 産科棟のない 2 つの地域(Mndinda, Khuwi)のヘルスセンターに産科棟を建設する。 2013 年 3 月 11 日、外務省と特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパンとの間に日本 NGO 連携無償資金協力贈与契約が締結された後、事業スタッフの採用、オリエンテーションを行い事業が開始された。 事業開始後は、産科棟建設事業地の関係者とリーダーに対し、本事業に関する説明会を実施し、事業への参加・協力を促すとともに、ンチシ県に対する開発計画との重複を避けるために、関係団体及び、関係者から聞き取り調査を行い計画の合意・承認を取り付けた。同時に、マラウイ保健省とともに産科棟の詳細設計を行い、業者の入札を行った。6 月に建設業者による工事を着工し、事業期間内に完成見通しである。産科棟建設中は、カウンターパートとともにプロジェクトスタッフが予定通り建設作業が行われているか監督を行い、業者による手抜き工事や、質の悪い資材の使用防止に努めている。 産科棟 2 棟の完成により、安全なお産が可能になるだけでなく、産前・産後のケアも適切に実施できるようになり、ンチシ県の乳幼児の死亡率の低下及び罹患率の低下への寄与が可能になる。 なお、本事業の 3 か年計画を立てた当初、1 年次に Mndinda, Khuwi、2 年次に Malambo 地域の合計 3 か所に産科棟を建設するとした。同時に、ワールド・ビジョン・ジャパンでは、1 年次事業と並行して産科棟にて安全なお産を行うことを促すコミュニティ・モービライゼーションを自己資金で独自に展開してきた。この結果、産科棟の無

い Malambo 周辺コミュニティで早期の産科棟の完成を行政に訴えかけるに至った。行政側もこれに対応する形で DHO が独自に産科棟を建てる計画を立てたため、コミュニティの意思と DHO の自主性を尊重し、本事業では Malambo 地域に産科棟の建設を行わないこととした。ワールド・ビジョン・ジャパンとしては、今後も同様のコミュニティ・ムーブライゼーションを展開することでコミュニティおよび行政側の自主的な施設設置および運営を促すことで、事業の持続可能性を担保する努力を続けていくことにしている。

②これまでの事業を通じての課題・問題点

建設を進めるにあたり、マラウイ政府関係者と連絡を密にとり、細部にわたり合意を得つつ進めるよう心掛けているが、長期不在の職員が多く、合意に時間を要することが多くある。

③上記②に対する今後の対応策

県知事事務所や県保健局をより頻繁に訪れるようにしたり、モニタリングの際には役職にかかわらず政府関係者を必ず招くなどして、粘り強く積極的に関わりを保つようにする。また、担当職員が不在な場合には、意思決定ができる別の職員を必ず立ててもらおうよう要請しつつ、どの時期にどの職員が不在になるのかを常に把握できるよう、政府関係者と常に連絡を密に取るよう心掛けていく。